

Ⅲ. 律呂思想と正易思想のリバイタライゼーション

「律呂」思想は

東学の生命リミナリティの
易学的展開である「正易」
正易は東学の失敗の
上での再活性化

A. 東学の失敗はリミナリティ復活の失敗

東学は百済滅亡以後、数千年ぶりのリミナリティの復活であった。

B. 気を強調した東学の失敗により、易の重要性が復活

気を強調した東学の失敗により、理である易の重要性が復活。
時代の変化を東洋思想で主体的に解釈

B. 律呂は仏教のように東学のミュトスとして

現れる
東学のメーシスのような再現であったなら、正易、その中でも律呂はミュトスのようにミメーシスを展開させる

Ⅲ. 律呂思想と正易思想のリバイタライゼーション

金芝河の律呂思想は

「パプ（飯）」思想のように理念の天が
日常の地へ降りてくる。

生物のような胞胎・養生・欲帯の段階
金芝河の思想は展開過程においても
民族美学を維持する再活性化



Ⅲ. 律呂思想と正易思想のリバイタライゼーション

A. 再活性化は社会的アイデンティティの回復

多くのアイデンティティが解体されうるといふ脅威を受けると、自らの長所に立脚して個人が自分の信念体系を再編し変え、変わっ
た信念体系を実践に移して社会における自分の位置を変化させるように、社会もまた伝統を再活性化してアイデンティティを回復す
る

アンソニー・ウォレスは

民族文化の再活性化を通じて
民族は生命を回復すると述べた

B. インディアン・セネカ族のロングハウスから着想

多くのインディアンは白人の侵略により、初めは挫折して放縦な生活を送っていたが、改心してロングハウスという伝統的な共同住
居の復興を志し、破壊された生活で白人に立ち向かった

C. 危機→歪曲→再活性化 (revitalization)

1. 正常状態/2. 個人的ストレスの期間/3. 文化的歪曲の時代/4. 活性化の期間 (メイズウェイの再構成、コミュニケーション、組
織化、適応、文化変形および日常化の機能が生じる)/5. 新たな安定状態

宗教学においてリミナリティは通過儀礼に属し、再活性化
は再活性化儀礼に属する。

Ⅲ. 律呂思想と正易思想のリバイタライゼーション

金芝河の律呂思想は

ミメーシスがミュトスになるように
民族文化として生命のリミナリティ
律呂の生活の中の生命へと
養生、すなわち再活性化される過程
帯の過程における必然的な手順

〈표 1〉 한국종교사의 흐름

